

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	江戸川区発達相談・支援センター			
○保護者評価実施期間	2025年1月10日		～	2025/1/31
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	122	(回答者数)	99
○従業者評価実施期間	2025年1月5日		～	2025/1/31
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数)	17
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月14日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもだけでなく、家族のサポートも行っていること	利用者の皆様は子どもの支援を主訴として来所されるかもしれませんが、保護者の方にもお子さんの状況を知っていただき、適切な関わり方ができるようにサポートをしています。同時にご家庭での支援方法や、困りごとに関してもサービスや関係機関についての情報提供を積極的に行っています。	家族の状況はめまぐるしく変わっていくため、引き続き状況に応じた助言ができるように努めます。また、社会資源の情報収集についても継続し家族へのサポート体制を整え続けます。
2	高い専門性が評価されていること	ABA(応用行動分析学)に基づく発達支援を一定以上の水準でご提供できるよう、法人内で設けた基準に達したスタッフが支援にあたっています。また、こうした研修だけでなく、日々PDCAのサイクルを繰り返すことで、私たちの支援を改善し続けることが重要であるとの考えから、定期的にスーパーバイズ等を行い支援の改善を続けています。	来年度より、定期的なスーパーバイズだけでなく、ミドルサポーターを設置し、日ごろからケースサポートができる体制を整えます。スタッフ同士で互いの支援についての改善点、工夫している点を共有し、検討する機会を増やすことで事業所全体の支援の質の向上が期待できます。またケース会議の時間も定期的に設け、事業所全体の支援力の向上を目指します。
3	支援の個性が高く、子どもたちも通所を楽しみにしていること	「独自に開発したアプリケーション「AI-PAC」を活用し、お子さんごとにオーダーメイドで作成した支援をご提供しています。また、基本的に半年間は担当を固定にすることで、ご家族やお子さんの日々変わること状況、ニーズを汲み取りながら支援を提供できるように職員配置をしております。同時に、お子さんへは楽しみの中で学習が最大限行われると考えていますので、今後も楽しく通所ができるように体制を整えていきます。	引き続き、AI-PACの活用や、担当制の運用を続けます。また、一時的な代行や担当変更の際に、お子さんに不利益にならないよう、上記の事例検討の機会等を活用し、日ごろから担当外のお子さんについても一定以上の情報を得られるよう情報を整備するように心がけます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援者のスキルにばらつきが出てしまうこと	勤務する職員のバックグラウンドが違うことや経験年数によって差が出てしまうという状況は実際あるかと考えています。また入職時の研修をへてフォローアップが必要な職員へ適切にサポートができていくかと言うと体制的に満足できる水準にあったかと言うと難しい状況もありました。	上記にも記入しましたが、サポート体制の拡充を目的とし、ミドルサポーターを各曜日に設置し、各ケースのアドバイスがすぐに受けられる体制を今後整えます。また職員からのケース相談について、相談がしやすい環境を整えるということも同時に行ってきます。
2	事業所での取り組みや利用のルールなど周知が徹底できていない情報があること	職員の数が多いこと、特に非常勤の職員は毎日出勤していない状況があるため情報共有の質に差がでてしまっています。毎週水曜日は児童発達支援事業の職員会議となっていますが水曜日に出勤できないスタッフも少なからずいるため、情報共有が適切に図れる仕組みを今後も検討して行く必要があると考えています。	職員へは事業行に行うに当たっての制度や利用のプロセスなど、直接支援以外で取り組んでいる業務等について知ってもらう機会を作ることも必要かと考えています。また、施設利用することについて複雑なことも多いため保護者に対するの説明など今後も引き続き丁寧に行う必要があるかと考えています。こちらの情報共有の不足部分もあると考え今回ご指摘いただいた職員の紹介などは改めて作成させていただきます。